

## 《 1. 弾道ミサイル飛来を想定した訓練を実施します 》

1点目は、弾道ミサイル飛来を想定した訓練です。北朝鮮情勢が非常に急を要しているということで、弾道ミサイルが撃ち込まれた場合の対応について、国からもいろいろな準備をしてほしいという要請が来ています。

大分市のホームページに、弾道ミサイルが落下したときの市民の行動とQ & Aを掲載していますが、このたび、大分県、大分東警察署と協力して、大在小学校において、職員と児童を対象とした訓練、そして、それを通じて情報がきちんと関係部署に伝達されるかどうかを検証する予定にしています。7月14日午前10時15分から45分に大在小学校のグラウンド、関係機関の事務室等で行います。

撃ち込まれたと分かった瞬間に一番大事なことは、かたい建物、それから地下街があるところは地下街に逃げてくださいと言われておりますけれども、屋外にいる児童の場合は、校舎の中に至急避難をするということで、職員の誘導の要領と児童の屋内退避をJアラート——このJアラートは、大在に既に防災無線のスピーカーがありまして聞こえるのですが、市民の皆さん全員ということではなく、大在の小学生を対象にしますので、今回は校庭まで聞こえる校内放送で、「危険なので大至急退避をしてください」という放送をします。そして、大分市緊急事態連絡本部総合情報室を設置しまして、そこに連絡が入り、関係のところに電話回線、防災無線等を通じて連絡をしていくということを確認する予定にしています。

ミサイルが落下した場合、大変短い時間、おそらく発射から10分ぐらいで着弾してしまうということで、その間、できるだけ早くかたい建物の中に入る。それでも直撃された場合という問題はありますけれども、ミサイルにNBC——核、生物、化学兵器がついている可能性もありますので、とにかく中に入って避難をして、情報を得ることが大事ですので、そのための避難の訓練ということです。

それから、情報がしっかりと伝わるかどうか。特にNBC兵器の対応をする特殊災害消防隊まできちんと伝わって、そこから出動していく。そういう経路になるための情報伝達の訓練、初動対応の訓練を行う予定です。

参考のところに書いていますのは、昨日で6月議会の定例会が終わりですが、特殊災害消防隊の装備を充実しなければいけないということで、全部で2,000万円の予算を提案しました。議会では満場一致で承認をいただいています。早速この装備を整えたいと思っています。

そのような形で、地震もそうですけれども、北朝鮮のほうも、もちろん外交的な努力でこのようなことが起こらないというのが最も重要ですが、一方で、万一何か起こったときの準備をしていくのも大変重要なことですので、市民の安全を守るということで取組をしていきたいと思っています。

## 《 2. 自動運転バスの実証運行を実施します 》

2点目が、自動運転バスの実証運行です。3月の29年度当初予算の会見のときに説明をさせていただきましたが、自動運転バスの実証運行をいよいよ行う予定にしています。うみたまごと田ノ浦ビーチの間、約1kmを時速10kmで10分ぐらいかかりますが、6名の方に乗っていただいて1日12往復するという事です。片道で1日72名、往復で140名ぐらいの方に乗っていただく用意をしています。うみたまごと田ノ浦とそれぞれで受付をして、先着順で乗っていただくということですが、たくさん来そうであれば、整理券等も考えたいと思います。このような形で、自動運転の実験と、こういうものに関心のある方に乗っていただく体験をしていただくことを予定しています。

走りますのは「Robot Shuttle（ロボットシャトル）」という自動運転バスで、（株）ディー・エヌ・エーに運行をしてもらうということで大分市から委託をする予定にしています。ちなみに、（株）ディー・エヌ・エーはいろいろなところで実験してまして、例えばイオンモール幕張新都心、秋田県の田沢湖畔、九州大学の伊都キャンパスなど、いろいろやっていますが、国道でこういう実験をするのは全国で初めてということなんです。

そして、8月7日にプレ運行ということで、報道機関の皆様にも乗っていただく予定にしています。8月7日の10時からです。プレ運行では、うみたまごの中で400メートルを自動運転で行ったり来たりするという形で行いたいと思っています。詳細については改めてご案内します。

この実験では、国道は車道ではなく、歩道を使うのですが、いろいろと通行規制等も必要になりますので、警察等と相談をしながら行いたいと思っています。

## 《 3. 「おおいた観光物産展 in 有楽町」を開催します 》

それでは、3点目です。今まで、トップセールスというんでしょうか、京都のイオンモールや武漢など、いろいろなところで特産品のイベントをやってきましたが、今度は、有楽町で大分の観光物産展を行いたいと思っています。

大分市だけではなく、大分都市広域圏の臼杵市、豊後大野市、由布市、日出町と一緒にやろうということで準備をしております、7月16日と17日、有楽町駅前広場で開催します。

物産は、大分市は「くろめ藻なか味噌汁」「にら豚のタレ」、倉光の「沙羅」「光樹」「双樹」等のお酒など。それから、臼杵市、豊後大野市、由布市、日出町、県からは坐来大分に参加していただく予定になっています。

このような物産の販売とともに、キッチンカーで「とり天」と「にら豚」の試食も予定しています。

あわせて、ステージでいろいろな大分の魅力の発信のイベントをしたいと思っております、鶴崎踊り保存会の皆さんに鶴崎踊りを踊っていただいたり、「SARUTABI」の菊千代に出演してもらったり、ポルトガルギターのマリオネット——二階堂のCMをつくっていますけれども、この前、「豊後府

内」という曲をつくってくれまして、これが非常にいい曲なので、また改めてホームページ等でもご紹介したいと思いますが、このような方でありますとか、大分出身の漫才のダイノジさんとか、シンガーのnanamiさんとか、こういう方々によるイベントを用意しております。そのほか、観光協会による大分の観光PR、こういうことを広域で進めることによって大分の魅力を発信したいと思っております。

そして、その2日ほど前にプレイベントがあります。大分都市広域圏の観光情報と食情報の発信ということで、在京の報道機関、出版社、旅行関係の方を坐来大分にお招きして、大分の食を味わっていただくようなイベントも予定しています。

こういう形で、大分の魅力を大消費地でも発信していきたいと思っております。

#### 《4. 福岡・東京で開催される見本市へ出展する中小企業を募集します》

4点目が、東京と福岡で開催されます見本市に出展する中小企業の募集です。

この見本市というものは、実は販路開拓に大変効果がありまして、バイヤーの方や、ビジネスをしたい方々が見に来まして、いいものがあるとそこで商談が始まって、そのままビジネスに結びつくということが多々あります。

ニューヨークにジャビッツセンターという大きな見本市会場があるのですが、JETRO（日本貿易振興機構）のニューヨーク事務所でブースを1個買って、中小企業の方に入っていました。そうしますと、欧米中のバイヤーさんがいっぱい集まって、日本のものはいいので、実際に多くのものがビジネスに結びついて、世界への販路が広がったことがあります。

そういう、ビジネスに直結する見本市への出展を支援したいということで、2つ予定しています。

1つは、福岡のマリンメッセ福岡というところで行われます「FOOD STYLE 2017」。これは食品関係で、11月7日から9日、10社程度の大分の中小企業さんを募集したいと思っています。それから、「エコプロ 2017」は東京のビッグサイトで行われます。12月7日から9日で、省エネ、環境配慮製品、リサイクル、水素エネルギー関係で、これも10社程度です。

出展すると、通常、小間料といいますか、場所代を取られまして、「FOOD STYLE 2017」ですと1社当たり28万円、「エコプロ 2017」は約35万円かかります。こういう費用や、その中で展示するための装飾とかPRの冊子などを大分市が負担して出展しやすくすると。基本的に、運ぶ費用とか宿泊費は出展者の負担になりますけれども、一方で、大分市中小企業見本市等出展事業補助金という仕組みもつくっております。これに申請をしていただいて、交付決定を受けましたら、交通費とか宿泊費の2分の1は市のほうで負担します。このようにダブルで支援をすることによって、販路を広げていこうという意欲のある中小企業の支援をしていきたいと思っています。

秋冬の開催ですが、応募期間は7月3日から31日まで、そして、説明会も7月12日に行いたいと思っていますので、意欲のある中小企業の皆さん、販路開拓をこれからやっていきたい、商品に自信があるという方々はぜひ応募していただいて、こういう機会を活用してビジネスを広げていただければと思います。

#### 《5. 小規模事業者の販路開拓と業務効率化を支援します》

5点目も同じ販路開拓の支援措置で、小規模事業者の販路開拓と業務効率化を支援しますということです。

販路開拓のために商品パッケージのデザインを変えるとか、ネット販売システムをつくるとか、販促用のチラシをつくるとか、陳列を変えるとか、それから業務効率化では、労務管理システムを導入しての給与管理とか、POS関係で売上管理業務の効率化を図るとか、小規模事業者が販路開拓あるいは業務効率化をする上で大事な事業があります。卸小売ですと5人以下、製造業ですと20人以下の場合が小規模という定義になっておりますけれども、小規模事業者はなかなかこういう事業を行う余裕がありません。そこで、こういう事業に対しまして、補助対象経費の3分の2、補助上限額30万円で支援をしたいということでございます。

申請期間は8月1日から12月28日まで、この間に、関心のある方は商工労政課にぜひお問い合わせをいただければと思っています。

これは、実は国の制度がありまして、国の小規模事業者持続化補助金は結構要件が厳しくて、申請するときには経営指導員の指導を受けて経営計画書をつくってくださいとなっておりますし、それから、販路開拓のみ、または業務の効率化と販路開拓の両方をやってくださいとなっております。大分市が今回つくった制度は、経営計画書がなくても、商工労政課と相談をしてもらって、これでいきましょうということであればそれで申請していただけてとなっておりますし、業務効率化のみでも申請ができますということで、より使い勝手がいい仕組みになっていると思います。

補助限度額が国は50万円、市は30万円ですので、しっかりしたやつをつくって補助限度額が高いほうでやろうという方は国のほうを使っただいて、ちょっと簡易で、補助限度額は小さいんだけどもやってみようという方は市のほうを使っただければと思っています。

これも関心のある方はぜひご連絡、お問い合わせをしてください。

#### 《6. 大分市の教育を考えるシンポジウム「つなぎ・つながる教育を目指して」を開催します》

最後の6点目です。大分市の教育を考えるシンポジウム「つなぎ・つながる教育を目指して」というシンポジウムを、7月28日にコンパルホールの文化ホール、500名のところで行う予定にしています。

市長部局と教育委員会が28年に一緒につくった「教育大綱」を踏まえて、2

9年3月に教育委員会で「大分市教育ビジョン2017」をつくりました。「つながる」というのは縦と横ということで、縦というのは、幼児教育から社会人教育まで、一生いろいろな形で教育とかかわっていく、横は、地域、学校、家庭、そういういろいろな横のスクラムで教育を考えていく、この両方をつなげていきながら、子どもたちとといいますか、生涯にわたって教育を考えていこう、充実していこう、そういう考え方です。

内容は1部と2部に分かれておりまして、1部は「縦」ということで、まず教育について、提言や意見を持っている学生から発表してもらいます。中学生による「昔の中島を探る」というレポートから始まりまして、高校生、大学生、エスペランサ・コレジオ——働きながら勉強している方、そして、ナイトスクール——夜、中学校の勉強をもう一度し直している方、こういう方々に発表していただいて、最後に教育長が感想、講評を述べます。

2部は「子どもたちの学びを支える」ということで、大分大学の伊藤教授にコーディネーターになっていただいて、今度の人事で教育委員を退く予定になっていますが、長年教育委員として貢献していただいた角山さんが企業代表、そのほかにPTAの西嶋さん、地域からは淵野さんと大在中学校の佐藤校長、そして私もパネリストに入りまして、教育についてのディスカッションをする予定にしています。事前申し込みということでお願いをしております。

私からは以上です。